

麻しん（はしか）が感染拡大しています。

重症になりやすく、感染力が極めて高い麻しん（はしか）は、佐賀県では2020年以降発生の報告はありませんが、国内では2020年以降最多となるペースで感染拡大しています。

麻しん（はしか）は、マスクや手洗いでは感染予防として十分ではなく、ワクチンが重要です。麻しん（はしか）は、「かかってもたいしたことはない」感染症ではなく、肺炎・脳炎・腸炎などで重症化することも多く、先進国でも重症化することもあり、1,000人に1人死亡するとされている感染症です。感染拡大防止のため、以下の事項について、ご協力をお願いいたします。

○麻しん（はしか）とは

- ・麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、「はしか」とも呼ばれています。
- ・麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染でヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。

○麻しん（はしか）の主な症状について

- ・麻しんに感染すると約10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。
- ・2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹が出現します。
- ・肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

○麻しん（はしか）を疑う症状がある場合は

- ・麻しんを疑う症状がある場合は、外出を控えるとともに、受診する場合には、事前に医療機関に連絡の上、医療機関の指示に従ってご対応いただくようお願いいたします。
- ・土日及び大型連休中の当番医や受診可能な医療機関については「99さがネット」をご確認ください。
- ・感染拡大防止のため、受診の際には、公共交通機関の利用を可能な限り避けることについて、ご協力をお願いいたします。

○ワクチン接種のご検討

- ・ご自身の発症予防、重症化予防、集団としての感染拡大防止の観点から、ワクチンは2回接種することが重要です。
- ・お子様が麻しん・風しんワクチンの定期接種の対象である1歳又は就学前1年間にある場合、積極的に早期の接種をご検討ください。
- ・海外では大きな流行が複数の国で報告されています。接種が不十分な場合、渡航の2週間前までに接種することをご検討ください。
- ・2000年4月1日以前に生まれた方は、当時の感染状況もあり、2回の定期接種が行われていない可能性があります。母子手帳等で、過去の麻しんの罹患歴又は2回の接種記録を確認できない方は、今一度、麻しん・風しんワクチンの接種をご検討ください。なお、今回の流行は10代～40代の方を中心に流行していることも踏まえ、特にこの年齢層の方はご検討をお願いいたします。

○特に注意していただきたい方々

特に、以下の方々は、接種が不十分な場合、ワクチンの接種をご検討ください。

- ・ 保育園や学校職員、医療機関職員など、小さいお子さんや患者さんと接触する機会の多い方
- ・ 空港職員、観光業スタッフなど渡航者と接触する機会の多い方

また、以下の方々は、感染すると重症化すると言われておりますのでご注意ください。

- ・ 妊娠中は麻しん風しんワクチンの接種はできません。早産や流産のリスクがあるため、妊娠前の接種をご検討ください。
- ・ 免疫不全のある方は、主治医の方と相談のうえ、麻しん風しんワクチン接種をご検討ください。
- ・ 乳幼児は、肺炎や脳炎を起こすリスクがありますので、ご家族の接種歴をご確認ください。

○麻しん（はしか）の発生件数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年※
全国	744	10	6	6	28	45	265	362
佐賀県	13	0	0	0	0	0	0	0

※ 全国は、令和8年(2026年)4月19日までの累計速報値。

佐賀県は、令和8年(2026年)4月26日現在。